個別業務仕様書（支援業務⑥）

１． 委託業務名

那覇空港等機能強化に向けた調査業務（以下「本支援業務」という。）

２． 目的

島嶼地域における経済は、玄関口である空港・港湾機能と密接に連動しており、那覇空港は県内の観光・ビジネス・物流を支える最重要インフラである。沖縄振興に向けては、その要となる那覇空港を質・量ともに世界最高水準の国際リゾートビジネス空港とするための機能強化が必要である。

本支援業務は、GW2050 成長戦略において示した那覇空港等の機能強化を踏まえ、将来需要に対応するために必要となる空港機能やその導入効果、実現に向けた課題・条件等について調査し検証するとともに、今後の関係機関と連携した検討の基礎資料として取りまとめることを目的とする。

なお、本仕様書に定める「５． 業務内容」は業務遂行上の基本要件であり、提案者の高度な専門的知見を活かし、プロジェクトの発展に資する企画提案を期待する。

３． 委託期間

契約締結の日から 2027 年（令和９年）３月 31 日まで

４． 提案上限額

25,000 千円（消費税および地方消費税（10%）を含む）

※当該金額は、企画提案において提示する金額の上限額であり、契約金額ではない。

５． 業務内容

将来の航空需要への対応及び沖縄の持続的な成長を支える空港の実現に向け、那覇空港等に求められる機能強化の方向性を総合的に整理する。あわせて、各施策の必要性、期待される効果、実現上の課題等を整理する。

（１） 現状の那覇空港における処理能力の課題調査

将来の航空需要への対応に向け、滑走路横断を含む航空機・車両等の動線等、現状の那覇空港の処理能力を制約する要因を定性的・定量的に調査・分析することで、空港全体の処理能力向上に向けた滑走路・誘導路、旅客ターミナル等の施設配置の機能強化の方向性を比較検討する。また、運用上の課題などを踏まえた将来の年間旅客数3,600万人に対応できる機能強化策について、処理能力向上効果を明らかにする。

なお、調査にあたっては、少なくとも下記の事項を含むものとする。

- 現ターミナルの処理能力についての定性的・定量的評価
- 航空機の滑走路横断回数及び横断時間の調査・分析

- 機能強化の方向性（現ターミナル、センターターミナル等）による誘導路運用および滑走路処理能力への影響の比較分析

（２） 二次交通との結節のあり方についての事例調査及び検討

世界最高水準の空港の実現に向け、空港利用者の利便性・快適性の向上および空港から県内各地域への円滑な移動の実現に向け、国内外の先進空港における交通結節事例等を調査し、那覇空港に求められる交通結節機能のあり方を検討する。バス、レンタカー、タクシー等の既存交通に加え、将来の基幹交通、VTOL や海上交通等の新たなモビリティとの接続可能性も考慮し、必要な機能や配置等を整理する。

なお、調査にあたっては、少なくとも下記の事項を含むものとする。

- 国内外の空港における 2 次交通結節事例の調査・評価
- 那覇空港における 2 次交通との結節機能の最適配置についての検討

（３） 空港運用の効率化に資する給油機能の調査及び検討

将来の航空需要の増加を見据え、航空機への給油に要する時間や人員、空港内の車両動線等の現状及び課題を整理し、空港運用の効率化に資する給油機能のあり方を検討する。検討にあたっては、国内外の空港における給油方式や導入事例等を踏まえ、運用効率、安全性、経済性、導入可能性等の観点から比較・評価する。

なお、調査にあたっては、少なくとも下記の事項を含むものとする。

- 現状の給油方式における処理能力と将来需要対応能力についての定性・定量的な調査
- ハイドラント及び SAF 対応給油設備導入にあたっての課題と導入効果の整理と燃料供給、貯蔵を含めた検討
- 給油方式における基本機能、配置、導入コスト、運用効果等の比較評価

（４） 空港運用の高度化・効率化に資する先進技術の調査

将来にわたり持続可能で質の高い空港運営を実現するため、国内外の空港における自動化・省人化、省エネルギー化等の先進技術及びその導入事例を調査し、那覇空港への導入可能性及び期待される効果を整理する。グランドハンドリング、保安検査、手荷物処理等を例として、空港運営の効率化、利用者の利便性向上、人手不足への対応、カーボンニュートラル等に資する技術を幅広く検討する。

なお、調査にあたっては、少なくとも下記の事項を含むものとする。

- 国内外の自動化・省人化、省エネルギー化等の先進技術調査と那覇空港への導入効果検証
- 効率的なグランドハンドリング等の空港運用における機能強化のあり方の検討

（５） 航空貨物機能の強化に向けた実態調査及び検討

那覇空港の地理的優位性等を活かした航空貨物機能の強化に向け、航空貨物の需要、取扱状況、貨物流動、施設配置等の現状及び課題を把握し、今後求められる物流機能のあり方を検討する。将来的な航空貨物需要や取扱貨物の可能性等も踏まえ、効率的な物流動線、必要となる施設・機能等について整理する。

なお、調査にあたっては、少なくとも下記の事項を含むものとする。

- 現状の航空貨物機能の実態調査
- 効率的な物流動線、必要機能等の機能強化のあり方の検討

（６） 新ターミナル整備後の既存ターミナルの活用に関する検討

新ターミナル整備を想定した場合における既存ターミナルについて、空港全体の機能強化や施設価値の向上、周辺地域との連携等の観点から、その活用可能性を検討する。商業、ビジネス、交通結節、交流・滞在等の機能を例として、国内外の空港における既存施設の転用・再編事例等も踏まえ、活用方策を整理する。

なお、調査にあたっては、少なくとも以下の事項を含むものとする。

- 国内外の空港における既存施設の転用・再編事例の調査
- 価値創出を実現する既存ターミナルの活用策の検討

（７） 那覇港湾施設跡地との一体的な空港機能のあり方に関する検討

那覇港湾施設跡地の将来的な活用を見据え、那覇空港と那覇軍港跡地の近接性を活かした一体的な土地利用や機能連携の可能性について検討する。空港利用者の利便性向上や空港機能の補完・強化、交通アクセス、物流、交流・滞在等の観点から、両地域の一体的な活用によって創出し得る機能や価値、その実現に向けた課題等を整理する。

なお、調査にあたっては、少なくとも下記の事項を含むものとする。

- 那覇空港と那覇港湾施設との機能分担のあり方の検討
- 那覇港湾施設のまちづくりを想定した、段階的な開発のあり方の検討

（８） 会議体等の運営支援

本支援業務を円滑に推進するために、プロジェクトチーム（PT）、ワーキンググループ（WG）およびコンソーシアムを支援すること。

- PT：事務局・業務受託者・関係者等を構成員として、WGに向けて調査・検討する会議体
- WG：企業会・賛助会員・事務局・業務受託者等を構成員とし、PT 等を通じて検討した内容について議論する会議体
- コンソーシアム：GW 成長戦略の実現に向けて、各プロジェクトの意見集約・

合意形成を図る関係機関等で構成される組織体

- 開催頻度：PT/適宜、WG/月 1 回程度（Web 会議を含む）

６． 共通事項

本仕様書に定めのない共通事項は、「支援業務仕様書（共通事項）」による。

以上